

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」 平成25年度第1回推進会議の概要について

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」の平成25年度第1回推進会議を平成25年4月12日（金）に開催しました。

第3回推進会議には、7名の委員のうち5名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学人文部教授の朝日幸代氏にご出席をいただきました。

平成25年度第1回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、カッコ書は役職

〈委員〉

田上 至（特定非営利活動法人ふるさと企画舎 理事長）

※田上委員はご欠席

野口 あゆみ（特定非営利活動法人伊勢志摩
バリアフリーツアーセンター
事務局長）

李 相海（鳥羽シーサイドホテル国際担当）

桂 三輝（よしもと三重県住みます芸人）

※桂委員はご欠席

貫上 亨（近畿日本鉄道株式会社 伊勢志摩事業推進部 課長）

清水 清嗣（鳥羽商工会議所 専務理事）

稲垣 八尺（伊賀上野観光協会 専務理事）

〈ファシリテーター〉

朝日 幸代（国立大学法人三重大学 人文学部
教授）

〈推進会議の進行概要〉

会議の進行概要は以下のとおりです。

開会 10:00

取組の報告と意見交換

- 平成24年度の取組の振り返り
- 平成25年度のプロジェクト推進に向けて

上記について、主に短期的な視点から意見交換

閉会 12:00



〈報告等〉

- 冒頭、雇用経済部観光政策課長から委員の皆さんに、観光分野における官民協働が日々進化する中、現場で活躍する皆さんからの率直なご意見を期待する旨をお伝えしました。
- 意見交換に先立ち、観光政策課課長補佐から、平成24年度及び25年度の取組概要をご説明しました。その中では、今年度からスタートしている三重県観光キャンペーン「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」の方向性についても、委員の皆さんにお示ししました。

〈意見交換〉

- ファシリテーターから委員に対して、「式年遷宮を迎えるにあたり、今年の1～3月に実感したことをふまえて早急に対応すべき

と考えること」を中心に、意見の照会がありました。それに対して、委員からいただいた主な意見は以下のとおりでした。

(委員からの主な意見)

- 伊勢市内、特に内宮前で、交通渋滞が慢性化している。対策がなされていない慢性的な渋滞は、リピーターの確保に悪影響を与えかねない。さらに、時間の都合で伊勢止まりになってしまい、周囲の観光地にとって機会損失になるおそれもある。駐車場の収容力や渋滞情報など、ネガティブ情報ではあっても積極的に提供することや、比較的スムーズに参拝できる行程の案内など、対処が必要。
- 身体障がい者が内宮を参拝しようとするとき、車を停めて安全に乗り降りができる「停車場」が不足していると感じる。
- バス専用レーンはタクシーの走行もできないが、渋滞の緩和のためには、実車しているタクシーの走行は認めるなどの割り切りがあると良い。
- 観光キャンペーンは、やや総花的ではないか。発信内容には心臓となるものが必要。強いメッセージがないと、情報の垂れ流しになってしまう。
- 地域ごとの観光 PR に留まることなく、例えばスタンプラリーなどの手法を用いて、地域の連動性を高めていくことが大切。
- 伊勢神宮を中心にした PR が、全国に届いているのを実感している。
- 同一のモデルコースでもリピーターが帰ってきてくれるという点は、他の観光地にはない伊勢の特徴であり、三重県にとって大きな武器になる。
- 「観光の産業化」に関する県の取組が、短期・中期ともに弱いように思われる。今年のように県内観光が好調なときに、しっかり取り組んで結果を出した方がいいのではないか。

- バス等が不便な地域の駅前で、個人の観光客が近場めぐりをするために、乗り捨てのレンタカーやカーシェアリングの提供があればいい。
- 駅前などに、当該地域だけではなく広域的にワンストップで情報提供できるプロのいるビジターセンターがあればいい。パンフレットやインターネットなど、調べる方法は様々あるが、やはり人に聞くことが一番安心であるし、それこそが「おもてなし」である。

次回(平成25年度第2回)の開催予定

次回(平成25年度第2回)推進会議は夏頃開催し、具体的な議題に沿って、平成26年度取組に繋がるご意見をいただきます。今回会議で頂いた提案は、平成25年度以降の事業に反映させていただきます。